

IV-2

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林中学校

学校施設

中学は創設当初は一学年150名を超える生徒が入学した。1950年以降、公立中学校の整備が進むとともに生徒数は落ち着いた。一学年100名以内とする募集方針をとり、各学年2クラス程度の教育環境となった。まさにホームライクスクールの言葉があてはまる環境であり、1990年頃まで大きく変わることがなかった。1968年には鉄筋コンクリート造りの立志館が竣工し、中学専用の教育環境が整った。1972年には賢良館が落成し、初めは中高特別教室棟として、後に1階は中学教員室として使用された。

1990年以降、私立中高一貫校の教育が注目され始めた。本校でもこの要請に応えるべく、中学の収容定員を一学年4クラス規模に拡大した。2001年には新立志館が竣工した。中央に大きな吹き抜けを備えた特徴ある建築である。1階にはガラス張りのマルチメディア教室を備え、新時代の教育環境をアピールした。各階には5教室の普通教室、また200名収容の大ホール、理科室等の特別教室も充実している。



■ 創立当時の木造校舎（昭和20年代）
短大生・大学生と校舎を分け合って使用していた。



■ 賢良館（1970年代）
1階を職員室・事務室、2階を特別教室として使用した。



■ 旧立志館内のモザイク画（1988年）創立者をモチーフにしたモザイク画が校舎の壁に掲げられた。



■ 旧立志館（1960年代後半）
中学専用の校舎。鉄筋コンクリート2階建ての建築であった。



■ 新立志館正面（2004年）
堂々とした4階建ての建築である。内部には大きな吹き抜けがある。



■ 春の新立志館（2010年）
校舎に沿った桜並木が、春には見事である。



■ 新立志館内の理科教室（2021年）
理科実験室2部屋を備えている。



■ 新立志館1階のマルチメディア教室（2021年）
1階に入ると正面にガラス張りのコンピューター教室が見える。

IV-2

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林中学校

学校生活——日々の学び

中学の3年間は子どもから青年へと成長する重要な節目の時期である。教員の指導、仲間との出会いの中で一人一人の人格が形成されていく。学校教育の中核は日々の授業である。日々の教室での学びが、知識を広げ学力をつけていく。本校では専門性の高い教師陣を擁し授業の充実につとめてきた。英語科では早くから外国人教員による授業を取り入れた。教室・体育施設はもとより生徒が自ら学ぶ場として、図書館等の自習環境の整備にも意を用いてきた。小規模校であったが、高校・大学と一体の学園であることで、施設環境は充実していた。新 立志館は明るく広い一般教室を備え、ICT環境も整備され充実した教育環境を提供した。3か年の学校生活を終え見違えるように成長した生徒を温かく送ることが伝統として受け継がれている。



■外国人教員による授業（1980年頃）
早くから英語の授業の一部を外国人教員が担った。中学1年から外国人教師による授業を実施。英語は充実していた。



■中学第1期生の卒業記念（1948年）
学制の移行期であり、さまざまな背景の生徒が学んだ。



■自習風景（1950年代）
短大生・高校生徒ともに図書館内で自習に取り組む。



■新図書館での自習風景（1988～90年）
中高専用の図書館が開館し、閲覧室で仲間と学ぶ。



■プール授業の一コマ（1980年頃）
競泳の他に水球、自由遊泳の時間が設けられた。地域にも開放された。



■新立志館の教室（2003～05年）
広く明るい教室には空調、テレビ放送設備も完備した。



■卒業式後の一コマ（1988年）
生徒・教員がいつまでも名残を惜しんでいる。



■新 荊冠堂内での全校礼拝（2010年代）
新 荊冠堂で中学生全員が揃って礼拝を捧げる。

IV-2

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林中学校

学校生活——移動教室・文化祭・体育祭等

学校行事は学習成果を発表する場であり、学校生活に変化を与える重要な取り組みである。創立間もない時期から臨海学校に取り組んだことが記録されている。春・秋には遠足、冬には希望者を対象にスケート教室なども開催された。中でも、文化祭、体育祭（運動会）は学校行事の花形である。本校では文化祭、体育祭は高校と同一時期に実施される。文化祭では舞台発表、教室での展示など、一人一人の生徒がいくつもの役を担いながら充実した企画を揃えていた。体育祭では「花笠音頭」が中学生の恒例の遊技種目であった。2000年代に入り、4階建ての新 立志館が完成すると文化祭はさらに充実した。新校舎の中央にある大きな吹き抜けの空間は、全体の取り組みに一体感を与える。1階の広いスペースでは研究成果の展示、英語スピーチの発表などが催され来場者をひきつける。



■ 臨海学校（1950年）
江の島を背景に記念撮影。左から2人目が清水安三。寺院を宿舎にして実施された。



■ 動物園への遠足（1950年代）
春・秋には遠足があった。生徒には楽しい行事である。



■ 体育祭（1987-89年）
練習を重ねて「花笠音頭」に取り組んだ。



■ 体育祭（2010年）
色別対抗の大玉転がしで盛り上がる。



■ 文化祭発表（2012年）
新 立志館の広いスペースを生かした発表。写真はハンドベルの演奏。



■ 文化祭展示（1987-89年）
旧 立志館教室での書道、生け花等生徒作品の展示。



■ 合唱コンクール（1991年）
指揮に合わせて練習の成果を発揮する。旧チャペルにて。

IV-2

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林中学校

学校生活——移動教室・修学旅行

中学1年生の林間学校は、臨海学校にかわり1977年から続く行事である。2,000m級の志賀山への登山は1日がかりの行程であり、登り切った達成感は何ものにもかえがたい。星空のもとのカンプファイアーも楽しい思い出となる。修学旅行は1950-60年代は関西方面を周遊した。大阪、京都、奈良などを回った後、創立者の故郷を訪問し生家を訪ねることもあった。1970年代には新幹線の開業で倉敷まで足を延ばした。次いで飛行機を利用して沖縄を訪ねるようになった。高校が沖縄修学旅行に取り組むようになると新たな目的地を求め、1990年代には海外研修旅行に取り組んだ。初めはニュージーランド、やがてオーストラリアへと目的地を移し、4人グループでのファームステイを中核として今日まで継続してきた。実践的な英語学習、異文化体験の貴重な機会となっている。



■中1 林間学校（2000年）
志賀山登山の一コマ。励まし合いながら歩く。



■中1 林間学校（1980年）
志賀山登山の下山路で、大沼池の前にクラス撮影。



■中1 林間学校（1999年）
移動教室の夜はキャンプファイアーで盛り上がる。



■修学旅行（1957年）
関西方面の修学旅行。大阪城の前に記念撮影。
（伊藤忠彦氏提供）



■関西方面修学旅行（1966年）
関西方面修学旅行の途中で創立者の生家に立ち寄る。



■沖縄修学旅行（1987年）
戦跡の前に祈りを捧げる生徒。



■オーストラリア修学旅行（2004年）
ファームステイの後は町を散策して異文化体験。



■姉妹校生徒との交流（2003年）
オーストラリアの姉妹校を訪問して相互交流の時間をとった。

IV-2

桜美林中学・高校・幼稚園
桜美林中学校

学校生活——クラブ活動

男子は伝統的に野球部が人気がある。1970年代には東京都新人大会、都下大会で優勝を経験している。かつては体操部の活躍もめざましかった。音楽系では、1960年代にオーケストラ部が結成された。1965年には夏の合宿を兼ねて長野県まで演奏旅行に出向いた。今日の吹奏楽部の前史である。1990年以降、学校規模の拡大に伴い新しいクラブがつくられた。男女のバスケットボール部、サッカー部などである。陸上部は生徒の適性に応じた種目を指導することで能力を引き出し大会での入賞を続けている。文化系のクラブでは高校生と合同して活動に取り組むクラブもある。



■オーケストラ部演奏旅行（1965年）
前年に結成された。夏休みに長野に演奏旅行に赴いた。



■英語部の活動（1960年代）
テープレコーダーなども活用しながらの活動であった。



■都下野球大会（1977年）
ねばり強く戦い都下野球大会で優勝。創立者を中心に記念撮影。



■スキー教室（1980年頃）
クラブ活動が休みになる冬期休業の行事である。多くの生徒が参加した。



■サッカー部の練習（1994年）
サッカー部、バスケットボール部などが生徒数の増加に合わせて創設された。



■ハンドベル部の練習（2001-03年）
行事での賛美演奏や大会参加、招待演奏と幅広く活躍している。



■陸上部の練習（2004年）
自分に適した種目を選び、日々の練習で鍛え限界に挑戦する。



■吹奏楽部定期演奏会—中高合同—（2013年）
第50回記念定期演奏会を中高合同でパルテノン多摩大ホールで実施。